

2026/2/21 (土)
写真クラブ

2026年2月の福井新聞
写真の広場などから

吉岡 芳夫



2025年 年間賞

最優秀賞 「パッション」 鯖江市 渡辺 修一



福井フェニックスまつりの催しでYOSAKOIイッチョライ&DANCEが、ハビテラスでやっていることを知って撮りたいなあと思って行きました。この日は暑かったのですが、2〜3時間待ち、ベストポジションを取ってシャッターを押し続けたのを覚えています。こんな瞬間を大事に撮っていきたいと思っています。



AKOIイッチョライ&DANCEが、ハピテ
なあと行って行きました。この日は暑か
ポジションを取ってシャッターを押し続
断に撮っていきたいと思っています。

一般・優秀賞



くもりは、先人の知恵を守り継ぎ、自然とともに生き
る営みの中にあります。福井にしかないかけがえのな
い一枚を感動のまま撮り続けていきたいです。

鯖江市 牧野妃佐己

「柿色のしあわせ」
くあまあくなあれく

穏やかな秋の日、柿仕事を囲む笑
顔に、甘くあたたかな時の流れを感
じ、思わずカメラを手にしました。
四季の恵みを楽しみ、分かち合う福
井の暮らし。何げない日常にあるぬ



一般・優秀賞



午前0時を待ちます。白装束の親方と職人が息を合わせ刃物の鉄を鍛えると、火花が飛び散りその瞬間、何度もシャッターを切りました。これからも楽しんで写真を撮っていききたいと思います。

久しぶりに越前打刃物の初打ちイベントに行った時の作品です。雨と雪交じりの寒さの中、見に来る人、写真を撮る人が大勢いました。友人の横に三脚を置き元日の

鯖江市 澤田正二

「新春初うち」



学生・優秀賞

「しづき」

北陸高3年 小練奏汰



高校二年から毎月欠かさず応募し、撮影を通して福井には美しい景色が数多くあることに気づかされました。本作は三国で荒々しく波がはじける瞬間を捉えたものです。理想の波の形を追い求め試行錯誤をし、モノクロームで波の力強さを際立たせました。卒業後は東京の大学で写真を学びますが、一般の部でさらなる受賞を目指し挑戦し続けていきたいです。

学生・優秀賞 「ホームラン！」

福井商高2年 川下 莉愛



遠足の川遊びのとき、流木で素振りをする友人の後ろ姿を撮影しました。この作品は格好良くポーズを決める主人公と、奥で水をかけ合う友達との対比を入れるように構図を工夫しました。高校生活の何げない一瞬を大切に切り取った一枚です。これからも身近な日常の中にある大切な瞬間を写真に残していきたいです。

学生・優秀賞

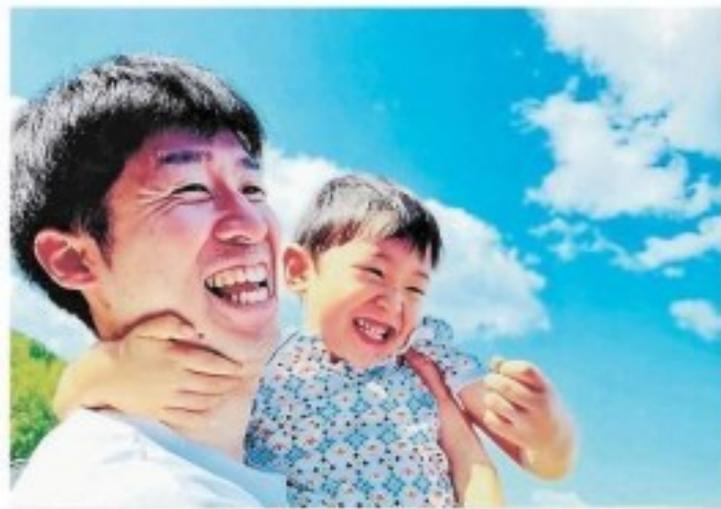
「いくぞー!!」

福井商高3年 本田七瀬



この作品は学校祭準備期間の応援練習で、定位置のところまでみんなで声を出し全力で駆け出しているところを撮ったものです。この日は突き刺さるような強い日差しと暑さでしたが、それに負けないほどのやる気と気合がその場においてとても伝わってきました。臨場感やみんなの本当に楽しそうな最高の表情を写真に収めることができよかったです。

ファミリー・優秀賞



富良野への旅行中、4歳の息子と父親を撮った一枚です。おいしいメロンソフトクリームを食べ、虫を捕まえて終始ご機嫌だった息子と、それを見て笑う父親の姿が北海道の爽やかな空にぴったりでした。見返すたびに当時の楽しさがよみがえる大切な写真です。これからは、そんな家族の日常を温かく残していきたいです。



敦賀市 笹尾 冴

「青空の下、キミのとなり」

ファミリー・優秀賞

「よんじゅー！ママ見てた？」

鯖江市 谷口 拓哉



初めての鉄棒で、一歳の息子が小さな手で一生懸命ぶら下がる姿。真剣な表情の中に、楽しさと誇らしさがのぞく一枚です。40秒も耐えた姿に、見守る親も驚きと感動でした。成長の一瞬を教えてくれた大切な写真です。これからも大切な一瞬を写真に残していきたいと思っています。



「春ってこんなに楽しい」

敦賀市 笹尾久美子

ファミリー・優秀賞



お花見に行った際、満開の桜の下で一心不乱に水と戯れる孫の姿を捉えた一枚です。まだ風に冷たさが残る季節ですが、ぬれるのもいとわず、時間を忘れて噴水のしぶきを追いかける孫の姿から春の始まりを感じました。まだまだ花より遊びの孫とともに、これからも季節を感じる体験をできたらいいなと思います。

総評

2025年の「写真の広場」には、延べ751人から計1338点の応募がありました。その中から最優秀賞に輝いた渡辺修一さん（鯖江市）の作品「パッション」は、踊る人々をダイナミックに撮影したものです。広角にとらえたことで、迫力のある作品に仕上がっています。

優秀賞には、自然と野生動物を美しく活写した作品のほか、子どもたちの生き生きとした表情を捉えたスナップなどが選ばれました。写真の広場は26年から月例募集から年4回のコンテストに模様替えされましたが、たくさんのお応募をお待ちしています。（審査員）
写真家・水谷内健次氏▼フジカラ
―北陸・藪根宏朗氏▼福井新聞社
報道部長・宮本宰直、編集委員・
長島昌徳（

水点下の製紙所で熱々と越前和紙をすく職人（1月、越前市大滝町（山崎彩撮影））



2026 ふくいの冬

福井県内の積雪が例年以上に多くなった今冬。雪に覆われ北陸特有の灰色の雲が広がる世界は、四季の中でも地味な季節に映る。一方、冬だからこそ見ることができ

る美しい景色や、人々の営みがある。福井の過ぎゆく冬をカメラを通して振り返る。

（写真取材班）

＝2～4、20～25面



2026 ふくいの冬

テラスの先に広がる銀世界。水墨画のような雄大な雪景色が広がる＝2日、永平寺町下浄法寺のESHIKOTO（長島昌徳撮影）



2026 ふくいの冬

今年度卒園する全員でクロスカントリースキーを楽しむ園児 = 1月、勝山市長尾山総合公園内「かつやま恐竜の森スノーランド」(杉本哲大撮影)



2026 ぶくいの冬

餌を求めて冬の野鳥レストランでヒマワリの種をくわえて飛び立つヤマガラ
1月、大野市の県自然保護センター(杉本哲大撮影)



2026 ふくいの冬

雪の下に埋まったキャベツを丁寧に掘り起こして収穫する農家
= 5日、あわら市井江葎(杉本哲大撮影)



2026 ふくいの冬

雪化粧した越前市味真野小のシンボル一本桜。春の訪れが待ち遠しい
= 1月、同市池泉町(山崎彩撮影)



2026 ふくいの冬

冬の荒波を滑るように進むサーファー＝9日、高浜町難波江(小型無人機ドローンで山崎彩撮影)



2026 ふくいの冬

雪遊びの催しで雪だるまを作る家族連れ。寒さを忘れて夢中になっていた
= 1月、大野市箕道のスターランドさかだに(山崎彩撮影)



2026 ぶくいの冬

激しく雪が舞う中、管理馬とスキンシップをとる女性インストラクター―1月、福井市
西荒井町のほんご馬の里(長岡昌徳撮影)